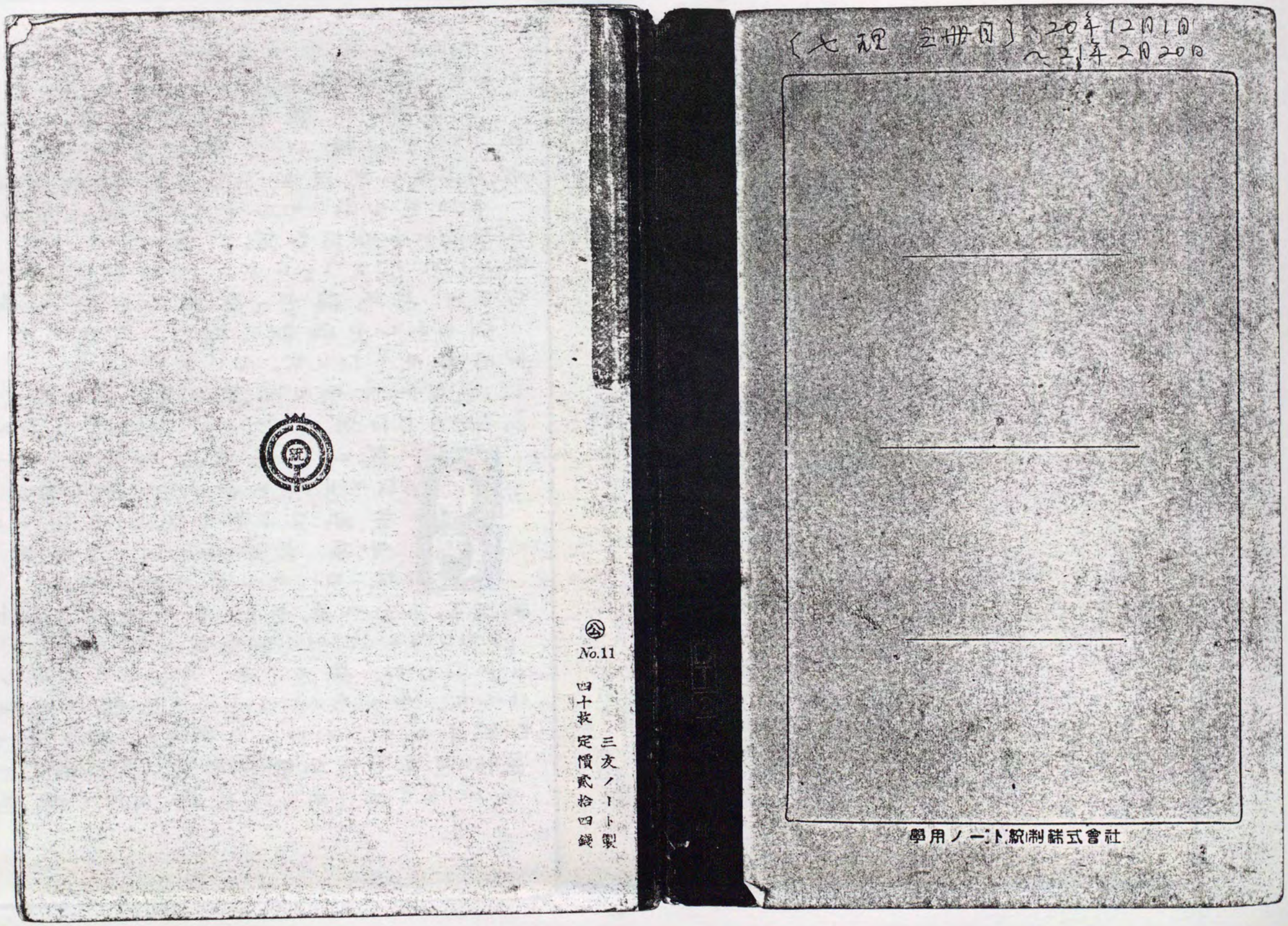

No.11
四十枚 定價貳拾四錢
三友ノート製
學用ノート統制株式會社

十二月一日　土曜日　曇雨

明方四時ごろ目がさめた。少し寒い。先生の所へもぐりこまうと思つて、まづ手をつつこんだ。「もくもく」とふとんが動き先生の手にさはつた。暖かい手。ぎゅつとにぎつた。「いらつしやい」。まくらを持つて、もぐりこんだ。暖かい。すごく暖かい。先生がだいて下さつた。とてもうれしかつた。

午後、六年は、又、山田村へ、大根運びに行つた。この間よりも少なく二臺でゆう〳〵乘つた。

歸りは、雨が降り出し、とても寒い。車のつなを「よいしょ〳〵」と引つぱりながら、雨の中を走つて歸つた。冬のお大根もずゐ分多くなつた。うて來

空もやうが雪空になた。夜おこたに入つてゐると、お兄様が「明日あたりは、雪が降るぞ」とおつしやつた。十二月は、みぞれも降らないですんだのだ。

今日からは、もう十二月。ほんたうに早い。あと一月でお正月なのだ。今年の最後の月、しつかり暮さう。寒さにうち勝つて。

日記帳も新しいのに入つた。この帳面もきれいに書かう。

今日から起床は七時。

十二月二日　日曜日　みぞれ・雪（時々）

朝、目がさめると、とても寒い。先生が「今日は、みぞれが降ってますよ」。とおっしゃったので、ひえっと思った。床から出るのが何だかいやだ。

左の山も、醫王山も、すその方まで、白くなった。ほんたうに冬景色だ。

寒くなったので、外たう、眞冬に着る物などを出した。してゐると、とうとう雪が降り出した。初雪だ。うれしい。早くつもんないかな。

しばらくすると、すぐみぞれになってしまふ。

おこたに入って、あみ物をしたり、外の景色を眺めたりした。

俳句

初雪やこたつの中で雪見かな

みぞれの間に時々雪が降ってゐた。

夜、お風呂に入った。冬は、お風呂が暖まっていいなあと思った。とても、いいお湯。ふとんに入るとぽつぐしして來た。

十二月三日　月曜日　晴のち曇

昨日あんなに、みぞれが降ったり雪が、降ったりしてたのに、今日は、お天氣だ。山の雪が、冬の日に、白く光って、とても美しい。

今日から、新時間割表。今日は、第一日目をした。國史の時間は、五箇條の御誓文のところをお習ひした。宮地先生の國史はとてもおもしろい。

午後、寮へ歸る時、前に白星のついた妙な自動車が來るので、おやっと思って見ると、アメリカ人が乘ってゐる。鼻の高い、青い目をして。

始めて見た。でも思ってゐたよりそれほど氣持わるくはなかった。

おこたに入って、みんなでいろいろなお話をした。おかしな話も出て、先生を始め、みな大笑ひをした。

今夜から順番に一人づつ、先生が、だいて寢て下さることになった。うれしい。

十二月四日　火曜日　雨

今日は雨だ。それに、風がひどい。二日目の授業。理科の時間も算數をした。坂の高さ、角度を計る方法をお習ひした。

午後は寮舍へ歸って、靜かに勉學してすごした。

十二月五日　水曜日　曇のち雨

朝、七時半の汽車で、高田先生は、お家へ

お歸りになつた。いらつしやらない間、さびしいなあ。みんなに一人づつ、お手紙を置いて行つて下さつた。注意が書いてあるのだ。起きて見ると、洗面器の中に、入つてゐた。お掃除も終つて、おちついてから、みんなで、見せ合つた。そして、

「先生のいらつしやらない間みんな仲よく、しつかり暮しませうね。」と、いひ合つた。

午後は、寮舍へ歸らず、圖書館で自習した。圖書館のをぢさんが、火鉢に火をおこして下さつたので、みんなで、かこんであたつた。とても暖かい。消えさうになれば、ついで下さつた。ほんたうに、やさしいをぢさんだ。火鉢に當りながら算數をした。

高田先生がお歸りになるまで、山口先生が、いらつしやることになつた。

十二月六日　木曜日　曇時々晴

午前中は、四日目の授業があつた。午後は、吉江村へ大根運びに行つた。今日のところは、とても近い。私達は、十四五本ぐらゐづつふろしきに包んでしよつて來た。まだ手に持てたので、三本持つて歸つた。

とても肩が痛くなつた。

あとは、寮に歸つた。私達だけ八人、とてもさびしい。ああ、かういふ時に、先生がいらしたらなあどんなにうれしいだらう。とつくづく感じた。ほんたうに早く歸つていらつしやるといいなあと思つた。

十二月七日　金曜日　晴のち雨

朝、起きて見ると、とてもよいお天氣だ。氣持がいい。

普通に五日目の授業をした。算數は、角度の表をうつした。ちょつと見れば、すぐわかる。便利な表だ。

だんだん曇つて、午後には、雨が降り出してしまつた。体操は、出來ないので、與助先生が、「風の中の子供」といふ本を讀んで下さつた。とてもおもしろかつた。

十二月八日　土曜日　雨

朝から雨だ。今日は、先生のお歸りになる日。うれしいな。

三時半から、舞台作り。それまで、中むら寮にゐた。

午後、みんな、ひまさへあれば、「高田先生まだかしら」と話し合つてゐた。

夕食の時、待つたがいらつしやらない。寮

なお「ばたん」と戸の開く音。「ただ今。」先生の
つた。ほんたうに水かつた。又にぎやかに
ながらも「たいて水戸のたんだ。」と思つてゐた。
ぢなあ。
をたのみに歸つ
た。
今日から外たうを着始めた。やつぱり外たう
は暖かい。
十二月九日　日曜日　曇
て今日は野村さんのお父様が、狂言をし
てくださるのだ。十時から始つた。お兄様やし
ばお弟子さんもいらしてゐた。
かかつた一番目は、末廣がり。二番は、ぶす。三番目は
これ最後に、宗論といふのがあつた。
陛下の御前でなさつ
々野村さんのお父様は、度
い。狂言とはお話にならない。
のうまくこれもこれもみなおもし
ろくこれもこれもみなおもし
ろくとてもお上手だ。私達「アボ〳〵」
「アボ〳〵」
は
た事があるのださうだ。びつくりしてしま
つた。今夜はまつたく日本一だ。
今夜は先生と一しよに寢た。
十二月十日　月曜日　曇
朝ちよつとよいお天氣だつた。が、すぐ
も、つてしまつた。
洗濯一日目の授業があつた。國史は明治
あと思つた。先生が、着國史を
ラスにぱんぱんあたる。
ばらくたうに有がたいなた
ばらくあらゝが降り出した。が
驗があるのだ。しつかり勉強しよう。
あこたに入つて國史をした。もうすぐ試
十二月十一日　火曜日　雪
今日もあらゝが降つてゐる。寒くなつたり
で火を圖書館のをぢさんが火鉢に
に當つた。
人ゝて下さつた。時間の間々
鬼強。午後は、寮舎へ歸つて
算數をした。
て今日はとてもあつい。あつく
たまらないほどだつた。

十二月十二日　木曜日　雪

朝起きてみると、眞白に雪が積ってゐた。うれしくて、雪の上を飛びまはりたいくらゐだ。しばらくすると、又降り出した。こまかい雪だ。さらさら降ってゐる。とてもきれいだ。午前中ずうっと降ってゐた。午後になると晴れて來た。木も屋根も白く光ってゐる。

十二月十三日　木曜日　晴午後雨

雪どけで道がわるい。わりあひよいお天氣だ。二時間は、算數の宿題。ポプラの木を計った。計算してみると二十八米くらゐだ。裁縫の時間は、手をあたためてからした。今週中に作り上げるのだ。

午後は日記を書いたりした。お便りが來なくて心配だ。もっと行を変へなくて續けて書きなさい。帳面がもったいないよ。繪は、効果的に印象的に書きなさい。あたらしい綴方帳をつくって、よい心いよく表れてみなさい。氣持のよい日をすごしましょうね

十二月十四日　金曜日　雨

雨だ。今日から二三日圖書館は、展覽會で使へないので、寮舍で、勉強することになった。朝食後、食糧運搬のお手傳ひ。西尾寮から大根葉を運んだ。運惡く、雨がひどく降り出して來てしまったので、一人が傘をさし、一人が持った。高田先生は、御用で、縣廳へいらっしゃったので、かはりに猿田先生がいらっしゃった。机を出して、いろいろな勉強をした。お母様からおはがきが來たのでとてもうれしかった。

十二月十五日　土曜日　雪

朝起きて見ると、夕べ、降ったのか、木も、屋根も眞白だ。まだ降り續いてゐる。休養日。朝食後、小使室で、体重測定をした。どのくらゐふえたか早く計りたくてたまらなかったのだ。いさんで計りにのる。ふえてる〈〉。〇・八キロふえてゐた。うれしくてたまらなかった。一月は、もっとふやさう。寮舍に歸って、おこたに入りながら、算數をした。

十二月十六日　日曜日　曇

休養日だ。朝食後、今日は、日曜日で、体錬教室があいてゐるので、久しぶりに運動した。冬になって、毎日、雨か、あられか雪が降ってゐて、みんな運動不足なので、ついふ時に、うんと運動しなくては。

圓を作って、かけ足をしたり、最後に綱引をした。綱が短いので二組に分れてした。掛聲も、前みたいに、「オーエス〳〵」で引いた。久しぶりに、かけ足や、つな引をして、体がのびのびとした。

お晝まで、圖書館に行って、展覽會を見た。いろいろな繪や彫刻などが、ずらっと陳列してある。みなとてもお上手だ。ついふ繪を見るのは、大すきだ。中のをしどりの繪はすきだった。

十二月十七日　月曜日　雨

今日は、國史の考査がある。考査があると思ふと、おちついてほかのことが出來ない。

雨が降ってゐるので、一時間目の新運びは中止になり、その間、一生懸命、國史の考査の練習をした。二時間目に考査があった。思ったよりもやさしかった。これで、心もせいくした。ひとまづ安心。

お晝、主事先生がお歸りになった。

十二月十八日　火曜日　雪くもり

雪が積ってゐた。朝、岩丸先生がいらした。昨晩お歸りになったのださうだ。もう、東京に歸るまで、お會ひ出來ないかと思ってゐた。とてもお元氣になっていらっしゃる。ほんたうにうれしかった。食前のてんつき運動の掛聲も、何だか、喜びにみちてゐるやうだ。みんなの顔もにこにこしてゐた。

夕食の時、國史の考査を返して頂いた。私は、優だった。

十二月十九日　水曜　雪あられ

朝から雪が降ってゐる。四年以上のゴムぐつを持ってゐる人は、各々品物取り。私達、二部六年の六人は、石田先生と、東太美へ、お芋を取りだ。　リヤカーを引っぱって行った。十時ごろ出發。雪や、あられがどんどん降ってゐる。雪道でとてもすべる。雪の中を一生懸命行った。東太美の役場を通り、立野ヶ原の方へよった。前柿を買ひに行った家だ。大分遠

い。風が吹いてゐるので、雪が、飛び、吹雪みたいだ。待ってゐる時は、ほんたうに、寒くて、泣きたいほどだった。歸りは、つかれたが、元氣を出して、歸った。

晝食後、すぐ寮に、歸って、暖かいおこたに入った。一日中降ったり休んだりだった。

十二月二十日　木曜日　晴

よいお天氣だ。午前中、五六年は、西尾寮の倉庫へ行って、お大根の整理をした。まづわらで、かこひを作ってから、下にもみを敷き、その上に大根を積んで、上から、すきまなく、むしろをかけて、暖かくしてやった。お大根の冬の用意は、出來た。すんでから、圖書館で、ストーブにあたった。とても暖かいし、これなら部屋も暖まる。

炭が二俵來たので、寮へ運んだ。歸るまで、じゅうぶんだ。うれしい。

十二月二十一日　金曜日　雨くもり

午前中は、私達の大根畠の大根ぬきだったが、雨が降り出したので、中止になった。授業があった。

午後、雨が晴れたので、大根抜きをした。どんなになってゐるかしらと思ひながら、畠に行った。

上出來なのは、直經六センチくらゐ、又小さいのは、ほんたうに細い。みなとてもかはいらしいのだ。でも、私達の手で、たねをまいたり、一生懸命肥をかけたりして、かはいがって、育てあげたお大根だ。いくら小さくても、これだけ出來ればうれしい。

十二月二十二日　土曜日　晴

わりあひよいお天氣だ。お正月には、又、福袋を送って頂いてもよい事になって、みな、大喜び。うれしくてたまらない。福袋のことばかし話してゐる。大急ぎで、お母様のところへ、福袋のおはがきを書いた。お正月がたのしみだ。

午後お洗濯をした。ずうっと出來なかったので、とても澤山ある。洗面器

今日は冬至だ。

一ぱい洗った。私と、堺井さんと、吉田さんはお風呂場でした。

十二月二十三日　日曜日　曇

今日は、皇太子殿下御延生日だ。去年の今日、皇后陛下から、御歌を頂いた思ひ出の日だ。今日から、食糧運搬。休養日なので、すぐ寮舎へ歸った。おこたつに入って、お裁縫をした。もうそでつけでおはりだ。

高田先生に、火星兵團の本を讀んで頂いた。とてもおもしろい。夢中になってしまふ。

午後もかみ洗ひまで讀んで頂いた。子供の忘年會。私達の作ったお大根が、夕食の時出た。

十二月二十四日

朝から、雪が降ってゐる。粉雪だ。朝食後、お米運びをすましてから、西尾寮から、大根葉のつけたのを運んだ。授業は、お裁縫室でした。午後、ゴム通しをし、かっぱう着を仕上げ、先生にお出しした。すぐ寮へ歸って床屋さんに行った。お正月が近いので、澤山來てゐる。毛が少なくなってさっぱりしたが、うなぢが、すうすうして、寒くてしょうがない。

一日中雪が降ってゐた。明日はクリスマス。

十二月二十五日　火曜日　曇

今日は大正天皇祭。クリスマスだ。お正月もあと一週間で來る。ほんたうに早い。祭日なのでお休みになった。朝、ガラス戸が氷ってゐた。こんな事は、始てだ。今日はずゐ分寒いのだ。どうとうマントを着て行った。すこぶる暖かい。お母様が持って逃げて下さったから着れるのだ。ありがたい。

ずうっと圖書館のストーブの部屋にゐた。ストーブに當りながらをぢさんに、講談社の繪本を見せて頂いた。漫画はいつになってもおもしろい。

十二月二十六日　水曜日　曇

午前中は授業があった。國語の時間は鎌倉をお習ひした。「七里ヶ浜の磯傳ひ」と讀まれると、自分の名を呼急にばれたやうで、はっとしてしまふ。四時間目、かっぽう着を

返して頂いた。（何だかうれしくなって）すぐ着てみた。長いく、ひざ小僧の下まで來る。でも大は小をかねるだよく合ふ。「家へ歸ったらこれを着て、お母様のお手傳ひをするんだ」とその時の事を考へながら、一人でほほえんでしまつた。

午後は、寮舍へ歸って、圖工をした。

十一月二十七日　木曜日　曇

今日で授業は終りだ。二學期も終りだ。お米運びなどをして、歸って來ると、地理の考査がまってゐた。福光生活といふのだつた。三時間目には、國語の考査もあつた。いみと、短文があつた。

試驗も、全分すんでしまひ、授業も、終ったので、やっと落着いた。

十二月二十八日　金曜日

朝のうちは、曇ってゐたが、しばらくすると、ちられが降り出して來た。が、いつのまにか雪にかはった。

今日は、先生方の成績會議だ。私達はみんな圖書館にゐた。日記を書いたりあみ物をしたりした。

午後、明日のお餅つきの用意、六年は、本田寮から學校へ餅米を運んだ。

十二月二十九日　土曜日　雪

お餅つきだ。うれしいな。朝から、先生方は、お米をふかしたりで大へんだ。朝食後すぐ始った。私達は、圖書館で自習した。今日は、炊事場で行はれた。つく所を見學に行った。今度は、臼がとても小さいので、少しづつしかつけない。眞白で、とてもきれいなお餅だ。何だかつきたくなってしまった。

十二月三十日　日曜

こゐごろは、毎日雪だ。どうやら、根雪になるらしい。お休みだ。午前も午後も圖書館のストーブの部屋にゐた。一生懸命くつ下を編んだ。今年中に作り上げて、お正月におろすのだ。午前中にあみあげて、午後、先をとゐた。出來上った。百合さお姉様から久しぶり

にお便りが来た。何かお年玉みたいなものを送って下さるのださうだ。福袋の方はどうしたかな？早く来ないかな。

十二月三十一日　月曜日　雪

大晦日だ。もう明日はお正月。ほんたうに早い。明日がお正月だとは思へないが何となくうれしい。今日は大掃除。

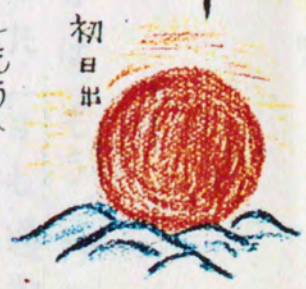
朝食後、まづお炊事場のお掃除をした。すのこもあげて掃ききれいにふいた。すんでから急いで寮に歸り、今度は寮の大掃除をした。はたきもかけたりすみのすみまで、きれいにして、今年のごみを全分なくした。障子はりもした。

夜、お風呂に入った。今年のあかをきれいに落して、お正月をむかへるのだ。お湯も多く、あつくとてもいいお湯だった。ゆつくり入った。

明日起きればもうお正月。校服や、新しいくつ下などを枕もとに置いてねた。

四つとせ夜の夜中に目をさましゃ
今年か去年かわからない。

紀元二千六百六年
昭和二十一年



一月一日　火曜日　雪

どうぞお正月。昭和二十一年だ。もう十四才になったのだ。今年もしっかりと暮さう。

朝六時に起きて、八幡様に朝まゐりをした。とても靜かですがすがしい氣持だ。神様に、「美知子も、又、素直な、よい子で元氣に暮せますやうに。」と祈り、新年をむかへ、日本再建設を誓った。朝まゐりがすんでから、お家の方先生、お友達に「おめでたうございます」をした。みんなの顔もにこにこだ。

九時から、祝賀式があった。午後寮に歸って、お年賀狀を書いた。

お母様とお父様から小包が来た。お母様の方は福袋だ。元日に来るなんてうれしいな。

一月二日　水曜日　晴

今日は、お書初などの日だ。家では、ひき初もしたつけなの。

朝から、からりと晴れて、すばらしくよいお天氣だ。とても氣持がいい。昨日がこうい

ふお天氣だとよかったのにな。
十時ごろからお書初をした。自由だ。私は「雪國の春」と書いた。雪が光ってきれいだ。
夜、お兄様といっしょに、ぜすちゃあをしたり百人一首をしたりして遊んだ。十時ごろまで、起きてゐた。

一月三日　木曜日　晴

今日もよいお天氣だ。午後からは、娯樂會があるので、午前中その、おけいこをした。
晝食前、十一時ごろから、主事先生の大禮服を見た。とてもすばらしい。大禮服をお着に「ドードー」なると（ナムサン）すごく立派

御だ。胸の所についてゐる金がぴか〳〵光ってゐる。始めて見た。
午後から、娯樂會。音樂室ですることになった。少し都合が悪かったが一生懸命した。その、あとは、樂しい福ぢり。石田先生が神主さん、喜門先生が福の神だ。お著や、えんぴつや干柿が入ってゐた。とてもおもしろかった。
お姉様やお兄様から小包が來た。

一月四日　金曜日

今日から第三學期が始った。「明日は、もう、お正月昭和二十一年ね。」などと言ってゐた一日も過ぎ、今日は、もう四日だ。
朝食後、お裁縫室で、主事先生のお話があった。疎開の事や、六年生の事、などのお話だった。ここを三月十日までには、引揚げるのださうだ。あと、わづかに二月だ。しっかりと、暮さう。
一日目の授業があったが全分自習だった。
夜、とうとう福袋を開いた。みんなにこにこだ。胸をわくわくさせながら開けた。開ける時が一番樂しいのだ。いろいろな物が入ってゐた。お餅、干柿、いり豆、みかん、などだ。夜は、枕もとにおいて寢た。

どてもうれしかった。

一月五日　土曜日　雪

今日は、先生方に、主事先生がお話になるのでお休みだ。丁度よい。すぐ寮へ歸った。
うれしくてたまらない。おこたに入りながら、食べた。（も）自由だ。火鉢で、お餅などもやいた。
吉田さんは、まだ來てゐないので、みんなで上げた。いろいろな物と、こうかんもした。

午前も午後も、みんなと、お話をしながら、頂いた。お母様の心をこうて入れて下さつたのだ。とても、おいしい。とても、樂しかつた。

今日は、とても樂しかつた。

一月六日　日曜日　雪

追羽大會だ。体錬教室でやつた。私は、相手は、乙(根)葉さんだつた。でも負けてしまつた。學園の仕返しをされちやつたかな。

途中で、時間が來てしまつたので、あとのは、次の日曜にすることになつた。

夜、石田先生が遊びにいらつしやつた。お餅をやいたり、おみかんやりんごや、福袋の中の物を出して、さし上げた。今晩は、喜門先生を送りにいらつしやるので、すぐお歸りになり、又、今度ゆつくり遊びにいらつしやることになつた。

一月七日　月曜日

二日目の授業。今日は七草だ。今晩は、いよいよ、高田先生が講座なさるのだ。夕食後、寮に歸つて、みんなで、先生の御成功を、一生懸命祈つた。

(どうかよくお出來になりますやうに)

お餅をやいて、先生のお歸りを、待つた。八時過ぎに歸つていらつしやつたが、とてもしよげていらつしやる。「ああどうしよう、いやだわ。はづかしい。明日學校に行けないわ」と、おつしやる。よくお出來にならなかつたのかしら?とても悲しんでいらつしやるので、ほんたうにお氣のどくになつてしまふ。

一月八日　火曜日

午前中は、三日目の授業があつた。國語の時間は、未虜がりをお習ひした。狂言をしたり見たりしたので、とてもよくわかる。時間で終つてしまつた。

午後は、寮へ歸つた。おこたつの中で、科目の復習をしたりした。

一月九日　水曜日　くもり午後雨

普通に授業。午後、三部六年が遊びに來た。お餅をやいて、御馳走して上げた。おこたに入つて、いろいろな話をしたりして、大笑ひしたり、源平に分れて、百人一首をして、遊んだ。私のおとくいは、

これやこれ行くもかへるも
わかれては、
しるもしらぬもおほさかのせき

だ。大分取るのが、うまくなつた。

夕食まで、ずうつと、あそんだ。

一月十日　木曜日　雪

五日目の授業。午後は圖書館にゐた。ストーブに當りながら、手袋を編んだ。くすり指までゐた。毛糸が何だか心配だ。

夜、英語かるたをした。エッグは、たまご。日本は、ジャパンだ。

一月十一日　金曜日

今日は、お洗濯の番だ。四時間目は、自習なので、四時間目から始めた。紙をもやして火をつけ、薪をくべて、一生懸命あほいでお湯をわかした。なかなか木が、もえないし、とてもけむい。

「をばさん達のご苦勞がしみじみと感じた。

午後から、洗ひ、寮へ干しに歸つた。

夜、堺井さんにをば様から來た福袋をわけて頂いた。今日で、樂しい福袋もとうとう終つた。

一月十二日　土曜日　雪

休養日だ。今日も雪。午前中は、圖書館にゐたが、午後は、こたつがあるので、寮へ歸つた。

夜、宮地先生から、圖書館の使ひ方について、注意があつた。をじさん達にも、ちゃんと禮儀正しくしなくては。

一月十三日　日曜日　晴

久しぶりに、お天氣だ。追羽大會の續き。やる前に、かけ足をした。「ヨイショ〳〵」と、掛聲をかけて、体鍛教室をかけまはつた。學園を思ひ出す。ほゝが眞赤になりとても暖かくなつた。追羽大會のあと「ヨイショ」レコードコンサアがあるはずだつたが、停電なので休めになつた。

一月十四日　月曜日

理科の時間はこれから、何でも知りたい事を話して下さることになつた。今日は、野口英世のお話。とてもかはいさうだ。目がしらがあつくなつてしまつた。今度の時間、又、續きをして下さることになつた。

今晩から、終戰以來なくなつた情報を、今度は、新聞記事のお知らせとして、又、今日から、して下さることになつた。

内閣・大臣の事だつた。わらぐつを頂いた。とてもいいくつだ。うれしい。

一月十五日　火曜日　晴のちくもり

今日は、十五日・待ちに待つた体重測定だ。どんなにふえたかな。

朝食後、ちび順に理科室で計つた・胸がわくわくする。一・二キロふえてゐた。こんなにふえたのは、こつちに来て始めてだ。うれしくてたまらない。學校中でだれもへつた人はゐない。先生もにこにこしていらつしゃる。

今は、二十六キロ。二月は、二キロふやして、二十八キロ以上になつて、歸らう。

一月十六日　水曜日

明日は、もう娯樂會・今日は、もう練習しなくては。午前中は授業。

午後は、寮へ歸つて練習した。今度は、じゆんれいお鶴の「阿波の鳴門」だ。

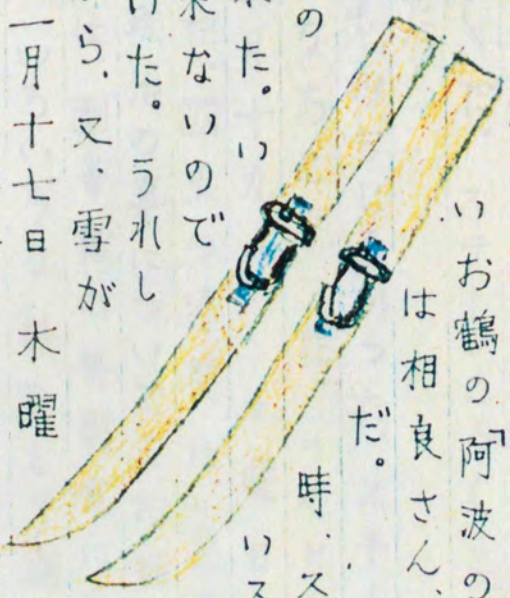
お弓は相良さん、お鶴は、乙葉さんだ。

夕食の時、スキーが出來上つて來た。いいスキーだ。大は、全分來ないので今日は、四台だけ頂いた。うれしいな。

夜から、又、雪が降り出した。

一月十七日　木曜日　雪

さらさら雪が降つてゐる。向ふが雪で、よく見えないほど、眞白な雪が澤山降つてゐる。



外へ出ると、もう二尺以上も積つてゐるのでびつくりした。見渡す限り、雪の世界だ。

わらぐつをはいて行つた。輕くて、とても暖かい。歩くと、さくさく音がする。始めてはいたのだ。

九時ごろから、音樂室で、娯樂會を行つた。私達は六番目。始めに、ピアノのかげで、「カチくく」と、拍子木のかはりに木をたたいた。

とてもよく出來た。先生方も、みんなも、「二部六年はうまい」とほめて下さるので、うれしい。

午後は、寮に歸つて、こたつに入り、しゃべつたり歌をうたつたりしてすごしてしまつた。

一月十八日　金曜日　雪

昨日一中降り續いてゐたのに、今日もまだ降つてゐる。もう一メートル以上も積つた・こんなに降つたのみたのは、始めてだ。

今日は、スキーの講習會がある。始め、石田先生のスキーについてお話をお聞きした。

すんでからローをぬる。私達が、始めに、ローをぬつて置き、その上を、先生に、アイロンの代用、ひしやくに火を入れて、ならして頂いた。

胸が、わくわく

いよいよ、スキーに乗つた。生まれて見ると、戸の所に、

「をじさんからのプレセントコーサート」

と書いたのが、

めてだ。うれしいが、ちょっと恐い。

降りて歩いた。雪に降りるまでが、すると、食糧運搬を

すうく歩けて、とても歩きやすい。

おもしろくて、どんどん歩いて行つた。

山はとてもすべる。やうやくのぼつてすべつて始めて、朝食後、急いで、

みたが、何と言つても始めてスキーにのつたので、

ほやくだ。ステーンころくと、体ですべつてしまつた。

とてもおもしろかつた。スキーは、おもしろくていいなあと思つた。うんと練習しよう。

一月十九日　土曜日　曇

授業だ。國史の時間は、第三日目の講座。武家政治の事についてのお話だつた。午後は、圖書館の特別室にゐた。火鉢をかこんで、いろいろな話をして過ごした。

一月二十日　日曜日　くもり

今日から食糧運搬だ。朝、圖書館に行つた。西尾察から、お大根百二十本と、里いも一俵を運んだ。十時ごろから、一　関覧室で、「をぢさんからのプレセントレコードコンサート」があつた。胡桃割人形といふお話の中にある音楽だ。久しぶりに聞くなつかしいレコードだ。みなうつとりとして、静かに聞いた。

時間があつたので、ハイドンの小夜曲などやいろいろなのを掛けて下さつた。楽しい一時だつた。

一月二十一日　月曜日　曇

今日から、いよいよ大寒に入つた。ますます心を引きしめて、残り少ない疎開生活を、しつかりと暮さう。

今日から、三十一日まで、寒にうち勝つ為に朝食前に、寒稽古がある。吉波察が一番だつた。私が先頭。たいこに合はせて、かけ足をした。「よいしょ、〈」と、元気よく掛

聲をかけながら、かけた。とても暖かくなつて氣持がよい。朝食も、いつもよりおいしく感じた。

一月二十二日 火曜日 曇

午前中は、六日目の授業があつた。

午後から、食糧運搬をした。もう運ばなくてもよいやうに、大根「ヨイショ」一人、三十本づつ運んだ。重ばつてゐる上に重い。二回に分けて、運んだ。

あとは、ストーブの「ヨイショ」まはりで、あみ物をした。

一月二十三日 水曜日 晴

第二回目スキーの講習會だ。晴れてゐて、丁度よい。

最初に、山で(し)驗をした。山では、人も一ぱいゐるし、まだ少しむりなので、(私は)五へ行つて、練習した。八鍬先生に、教へて頂き、一生懸命おけいこした。すべつてみるが、最後の所か途中で、すてんと、(ころんで)しまふ。(しり)もちをついて、すべつてゐて、(下から)のぼつてい らつしやつた阿部先生とぶつかつて、先生の足の間に入つてしまつた。「お入つた」(ヨクヌッタ)「お」、「よく」、「よく」。とおつしゃるので、おかしくてたまらなかつた。

何べんも、くすすすべれるやうになつて、すうすうすべつてゐるうちに、ころばなくた。いくらすべつても、もう大丈夫だ。うれしくてたまらない。とてもおもしろかつた。午後、全校で、かるた會をした。三部六年と一(私達は)しよに源平に分かれてした。三度とも勝つた。

一月二十四日 木曜日 雨

今日は、休養日。朝から雨だ。朝食後、お

米運びをしてから順番に床屋さんに行った。久しぶりのお辨當に、あついおみそ汁。とてもさっぱりして氣持よくなった。修身・地理・國史の教科書を出して晝食の時持ってもおいしかった。少し休んでから、又すべった。雨が降り出したが、雨などかまはない。宮地先生や八鍬先先生と手をつないですべった。だか惜しいやうな氣がする。

午後、圖書館のお二階で、レコードを聞いた。

夜、明日、晴れれば立野ヶ原へ、スキーに行くので、よくスキーの手入れをした。晴れますやう。

一月二十五日　金曜日　曇雨

少し曇ってゐるが、立野ヶ原へ行く事になった。久しぶりにお辨當をつめ、スキーをかついで、出發した。みんながスキーをかついで、並んで行くところは、まったくおもしろい。スキーが重くて肩が痛い。立野ヶ原に出ると、一面の雪だった。

やっと、農場に着く。

さっそく身仕度をして、斜をすべった。よく傾すべれる。

ひありだ。

登っては、すべった。みんなが、

もくすべった。

ほんたうにここは、よい場所だ。一たん引揚げてお晝食にした。久しぶりのお辨當に、あついおみそ汁。とてもおいしかった。少し休んでから、又すべった。雨が降り出したが、雨などかまはない。宮地先生や八鍬先生と手をつないですべった時は、愉快だった。しばらくすべって三時に歸途についた。雨がひどくなったので急いで歸った。

おもしろくて樂しかったが、とてもつかれた。

一月二十六日　土曜日

今日は、昨日の疲れをなほすために休養日だ。うれしい。朝起きて見ると、腰や足が痛い。それに、つかれのせゐかとても寢むかった。圖書館にゐてあみ物をした。五本指の手袋が出來上った。歸る日にはめて行くのだ。

夜、おこたに入っていろいろな話をした。先生が、「歸る時には、みんなの一番喜ぶ、うれしいニュースを聞かせて上げるわね。」とおっしゃったので、みんな、大喜びだ。何かな。樂しみだ。早く歸る日來いく。

一月二十七日　日曜日　曇のち雨

今日から、新時間表だ。今日は、一日目の授業があった。午後は、寮舍へ歸って、髪洗

ひをした。先生が三時半に、御用があつて學校にいらつしやらなければならないので、急いで洗つた。

お風呂は、私達だけで入つた。とてもいゝお湯で、おとゝひの疲れもすつかりなほつた。

一月二十八日　月曜日　晴

今日は、お天氣。この分では、もう雪は、降らないかな。私は、もう毎日〳〵雪で、道でも、トンネルを作つて通つて行くのかと思つてゐた。今が冬とは、思はれないほど暖かだ。

理科の時間には、野口英世のお話の續きがあつた。ほんたうに英世はえらい。私もよい所を見習つて行かうと思つた。

夜、先生は、少し御氣分がおわるいらしく、お寢になつてらしたので、静かにした。

早くよくおなりになりますやうに。

一月二十九日　火曜日　曇

朝起きて見ると、先生は、もうすつかりお元氣になつていらつしやつたので安心した。

午前中は、授業。綴方の時間は、「私」といふ題で書いた。

午後は、圖書館の特別室にゐて、綴方を書きあげたり日記を書いたりした。

一月三十日　水曜日　曇のち晴

運搬、

日記の美しさ、とても素直なもの、平生は、どうしてあんな神經質なのかしら、心の広さなどになりませう

四日目の授業。國語の時間は、俳句をお習ひした。お裁縫の時、ブラウスの身ごろの型紙をたつた。型紙はとても小さい。これをもとにして作つて、着られるかしらと思ふくらゐだ。

夜、先生に、日記を見て頂いた。

雪空に黒くぬきたついてふかな。

一月三十一日　木曜日　晴

一月も、もう今日で終りだ。最後の寒稽古。「よいしょ〳〵」と、元氣よく走り最後をりつぱに終らせた。

とてもよいお天氣だ。ぽか〳〵冬の日がさしてゐる。

晝食時、お母様とお兄様から、久しぶりにお便が來た。しばらくお便りがなかつたので心配してゐた所なので久方に日をあびるかな　冬の午後

とてもうれしかつた。お母様のおはがきは、もううれしくて〳〵何べんも讀みかへした。福袋も造つて送つて下さるさうだ。

午後は、圖書館の二階にゐた。ぽかぽかと日がさしてゐて、ほんたうに暖かい。日向に椅子を出して、本を讀んだり、お母様にお手紙を書いた。いつもこのやうに暖かいよいお天氣だといいなあ。氣持のよい午後だった。

二月一日　金曜日　水雪

今日からは、もう二月だ。早いな。あ。する事は一ぱいあるし、日はどんくたって行く。のん氣にしてはゐられない。

朝食後、今月の行事についてお話があった。今月は、のんびりと、ようくこちらの風景を味ひ、そして最後をしっかりと暮すのだ。私達は今度炊事場のお掃除だ。きれいにしよう。

午後は、寮へ歸った。私と、先生だけだ。一人でおこたつに入ってゐた。

二月二日　土曜日

体養日。圖書館の特別室で、火鉢をかこみ日記を書いたりちみ物をしたりした。

午後、三部六年と、お醤油を取りに行った。福光橋の向ふつ荒井さんといふお家だ。中は、すごく廣い。お味噌や、お醤油などを作ってゐるのだ。大きなお釜でお豆を煮てゐる所もあった。山口さんと一しょに運んだ。

二月三日　日曜日　雪

今日は、節分だ。お家では、夜、豆まきをしたんだんなあ。「福は内。鬼は外」と。

朝から、小雪が降ってゐる。

午前中は、全校鍛練。始めかけ足をしてから、体操・運動をした。腕たてふせをして、足をあげ、腕をまげる。「なにお」と頑張った。眞直寝て、手を使はないで起きる。ひたひをひざ小僧につけたりごろごろころがったり久しぶりに、強い運動をした。

最後に、つな引き、つな取りをして終った。

夕食は、昭和二十年の鬼を、全分掃って、明日から、新しい氣持で暮すやうに、お赤飯があった。明るくよい心で立春をむかへやう。

二月四日　月曜日　晴

いよいよ立春。あの冬も過ぎて、そろそろ

春がおとづれて來たのだ。
すばらしいお天氣。ほんたうに、やはらかな、空だ。空(では)もづが高く鳴いてゐる。――
氣持がよい。心も晴々として、明くすんでゐる。立春をむかへ、ますます素直な、そして心の大きな子にならう。疎開生活も、あと前ほんとに少し、みんなと仲よく、元氣で樂しく暮らさう。

二月五日　火曜日　くもり

朝、先生は、お家におかへりになつた。私は班長だから、先生のいらつしやらない間、よくお留守番(責任を持ち)しよう。
お留守の間、やはり、山口先生がいらつしゃる事になつた。

二月六日　水曜日

東京から、主事先生と與助先生が歸つていらつしゃつた。主事先生お歸りといふので、みんな、大喜びだ。朝食後、主事先生の、お話しがあつた。新一年生の事や、えんこ疎開六年生の再入學の事(など)のお話だつた。私達二部六年、は、今度十二人歸つて來るさうだ。えんこ疎開の人達に負けないやうに、うんと頑張らなくては。
算數や國語など、ますくしつかり勉強しよう。

二月七日　木曜日　くもり

今まで使つてゐた教科書も、マッカーサー司令部からやつてはいけないと言はれた文を消さなければならない事になつた。午前中、國語と算數の本を消した。先生のおつしゃる所を墨で見えないやうに眞黒にぬつてしまふのだ。一枚だめなのは、切り取つてしまつた。今まで共に勉強して來た教科書、眞黒にぬつたり切つたりして、なくなつて行くのを見るとほんたうになさけなくなつた。敗戰國のあはれさみじめさをしみじみと感じた。夕食が終つて食器を洗ひに行かうとすると、康夫お兄様がいらつしゃつたのでびつくりした。思ひがけない。もうれしくてたまらなかほんたうにつた。
久しぶりに手をつないでお兄様と歩いて寮へ歸つた。
おこたに並んで入つていろいろお話した。

二月八日　金曜日　雪

朝から雪だ。圖書館の二階で、埼子に向ひ合つ

てすはり、面會した。もう今日の十時の汽車でお歸りになつてしまふのだ。樂しくお話ししてゐるうちに、またたくまに十時になつてしまつた。玄関までお送りし、最後に手をにぎつておわかれした。見えなくなるまで、手を振つた。何だかさびしくなつてしまつた。

二月九日　土曜日　曇

今日はいよく高田先生お歸りの日だ。朝食の時、病人のおかゆを持つて行つた。午後は、圖書館の二階にゐて過ごした。

夕食後、マニラからお歸りになつた男高師の先生が、マニラのやうす、日本の敗けた原因を話して下さつた。比島にいらした兵隊さんは、ほんたうにみじめだつたのだ。今始めて知つた。空襲の時のお話は、もうまぶたがあつくなつてしまつた。私達は、疎開してゐて幸せだつたと思つた。マニラのやうすをお聞して、南洋の島々に行きたいなあと思つた。高田先生がお歸りになつた。とてもうれしかつた。

二月十日　日曜日

晝食後、明日の紀元節の式歌の練習をした。午後髪洗ひをしたが、今日はとても寒い。体がぞくくして來た。夜、お風呂に入つた。とても暖かくていいお湯だ。きれいな体で紀元節を迎へれるやうにより洗つた。氣持のよいお湯だつた。

二月十一日　月曜日　晴

今日はいよく紀元節。やはらかな青い空。よく晴れて、すばらしいお天氣だ。久しぶりに、校服を着て行つた。家の軒先になつかしい國旗を見た。式後、薪運搬をした。一人一束づつ運んだ。夕食には甘い小豆のおはぎ。私達はこういふやうにおいしいおはぎなど頂けてほんたうに有がたいなあと思つた。とても甘くておいしかつた。

丈夫な体を持ち、新日本建設に向かおうと思つた。

二月十二日　火曜日

算數の時間には地球の事をお習ひした。思へば地球などは、危い命だ。地球の事を計算するのもばく大な數だ。「もし今、引力がなくなつたら、今、星とぶつかつたらどうする？」などと話したりして、「そんなこと考へたら頭がはげちゃふは。」と大笑ひしてしまつた。

てとても暖かだ。かはらにめのうがある
草とてもよいお天氣だ。よく晴れてゐるのといふので、お土産にと石を深した。めの
おで、郊外へ行軍することになった。福光町などはなかなかないのできれいな石をひ
なったともうすぐおわかれなので、方々見物ちった。きれいな小さい石が大部取れた。
手ゐるのだ。察ごとだ。私達は、福光町よりお家へのお土産を作り始めた。もう歸
で、部はづれた貝塚へ行った。昔の人が食べる日も近い。うれしいなあ。今日は、お母
ったといふ貝がらが化石になって残ってゐる様のおさい布を作った。
ださう（その）だ。土手のぼって、日向ぼっこした。ぽかぽかして、暖かい日ざしだ。ふとけるといふ

二月十五日　金曜日　晴

今日は、學校の學習會。見せて頂けるといふ
食べのでみんな大喜びだ。朝食後、ちび組か
は、ると、もうふきのとうどんどん体重測定をした。うんと、肥
つくしんぼとがかはえてると思って意氣込んでゐたが、こはい
の先顔を出してゐた。土手にも春がやっかりしてしまったのでがつ
をかは、来たのだなあと思ってしまった。おとなしく静かに學
知つた。舞踊の御所車などが一番すきだつ
あつた。笛隊は、途中しか聞けなかったが
て、それほど歩かなかつたそれもよかった。待ってゐた福袋が来た。
聞いが久しぶりに歩いたとてもうれしかった。開くのは楽しい。お
でつかれてしまった。豆やするめみかんは、さっそくみなで
二月十四日　木曜日　晴　いしく頂いた。小包は、これが最後だな。
今日も雲一つなくよく晴れてゐて、氣持
よいお天氣だ。昨日のやうに又察ごとに
畫へこか〜行く事になった。
した。小矢部川のなかす〜行った。よく日が
昨日まで三日もよい土曜日　曇
お天氣が續いたが今
日は、曇ってしまった。明日は、楽樂會

なので、午後から大急ぎで練習を始めた。
井の先生方で「父歸る」をして下さるさうで
たのしみだ。お父様のかみ入れを作った。
お餅をやく時さてあみおみやげのがない。思
案のあげくとうく火針を持ちその上に
のせてやいた。こんな事
もみんな一つの思ひ出だ
な。

二月十七日　日曜　雪

朝からちらく小雪が
降ってゐる。又氣温が下って
寒くなった。今日から食糧運
搬。すめば樂會で用意やら。もうそは
くして、すぐなかなか落ち着かない。
番がすんでやっと落ついた。先生方の「父歸
るは」もうそっくり。とても お上手なので、
目に涙がたまってしまった。
男の先生は、宮地先生しかいらっしゃらな
いので靜かだ。

土佐日記　紀貫之　（序文）

男もすといふ日記といふものを、井もしてみ
んとてするなり。
某の年十二月の二十日餘一日の戌の時に
門出す。其の由聊か物に書き附く。

二月十八日　月曜日　雪雨

授業。國語の時間は、「枕草紙」の事をお
習ひした。

筆　枕草紙　清少納言　（一番始め）

春は曙。やうやう白くなりゆく山ぎはすこ
しあかりて紫だちたる雲のたなびきたる。
夏は夜。月の頃はさらなり。やみもなほ
螢とびちがひたる。雨などの降るさへをかし。
秋は夕暮。夕日はなやかにさして山のはいと
近くなりたるに烏のねどころへゆくさへあは
れなり。まいて雁などのつらねたるが三つ四
つ二ついとちいさく見ゆるいとをかし。
日の入りはてて風の音虫のねなどいとあは
れなり。
冬はつとめて。雪のふりたるはいふべきにも
あらず。霜などのいと白き、またさらでもいと
寒き火などいそぎおこして炭もてわたるも
いとつきづきし。晝になりてぬるくゆるびも
てゆけばすびつ火桶の火も白き灰がちに
なりぬるはわろし。
夜。夕食後。新聞記事の傳達があった。
今度から中等學校は五年になるのだ。岸
さんからお手紙が來（又）た。

二月十九日　火曜日　曇晴

午前中は授業。午後からよいお天氣になったので、寮へ歸って荷物の整理をした。

もうとうく荷物の整理をするやうになったのだ。それだけに歸る日が近くなったのだな。みんなで歸る日の事を話し合ひながらゆつくり整理をした。

二月二十日　木曜日

午後は、圖書館の二階で